

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第2回甲州市環境審議会
開催日時	令和5年2月10日(金) 午後1時30分～午後4時
開催場所	甲州市役所 2階 第1会議室
議題	(1)補助事業の利用者アンケート結果・申請状況等について (2)甲州市ゼロカーボンシティロゴマークについて (3)甲州市再生可能エネルギー導入目標策定計画(素案)について (4)その他
出席委員	内田 智之会長、瀧澤 康雄副会長、 雨宮 正明委員、安藤 雅章委員、荻原 雄司委員、 萱原 春美委員、藤巻 眞史委員
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	環境課 4名(西嶋課長、廣瀬リーダー、土屋リーダー、窪田) 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 5名 (西田、矢崎、伊藤、今城、齊藤)
その他	

令和4年度 第2回甲州市環境審議会 審議概要（開催日：令和5年2月10日）

<p>内容</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 議題 （1）補助事業の利用者アンケート結果・申請状況等について</p> <p>（2）甲州市ゼロカーボンシティロゴマークについて</p> <p>（3）甲州市再生可能エネルギー導入目標策定計画（素案）について</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>事務局開会</p> <p>○内田 智之会長あいさつ</p> <p>議長：内田会長 ○事務局（廣瀬） 補助金を活用した市民へのアンケート結果について資料にて説明。 質疑 ○内田会長 広報の利用が有効だったことから、イベントも含めて市民への周知に関して、さらに力を入れていく必要がある。 ○事務局（廣瀬） イオンモール等のイベントで周知を続けていく。来年度、各種ノベルティグッズにロゴマークを積極的に活用する等して、周知を強化していく。来年度、補助対象としてウッドボイラーなど追加の検討をしていく。</p> <p>○事務局（窪田） 新しく作成したロゴマーク、用途について資料にて説明。 質疑 ○萩原委員 「こうしゅう桜フェスタ」は3月に開催されるが、県内外から多数の集客があるので、ロゴマーク等を用いて周知してはどうか。 ○事務局（西嶋） 前向きに参加を検討する。 ○内田会長 いろいろな機会、場で周知に協力していきたい。</p> <p>○基礎地盤コンサルタンツ(株)（伊藤） 甲州市再生可能エネルギー導入目標策定計画について資料にて説明。 質疑 第1章 ○瀧澤委員 脱炭素先行地域に取り組む意欲はあるのか。 ○事務局（西嶋） 脱炭素先行地域は採択のハードルが高く、現状の甲州市の再エネポテンシャルの認識では難しいと考えている。情報収集を続</p>
--	---

け、勉強も踏まえてチャレンジ精神を持つことは良いと思う。

○基礎地盤コンサルタンツ(株) (伊藤)

脱炭素先行地域の第1回採択倍率は約3倍。採択されるためには、中核となる企業・事業体制が必要となる。

○内田会長

国からの補助金などがつくので狙っていくことも大切。一方で、採択が厳しいことから採択された自治体等から学ぶことも、ゼロカーボン実現に向けて大切。

○藤巻委員

冊子は全体的によくできていると思う。細部の計画より、どのように実行していくか具体的な取り組みの議論が必要では。

○内田会長

計画を実質的なものにするためには、いつだれがどのように実行するかの具体性が求められる。

第2章

○瀧澤委員

公共施設において、省エネの措置は全て完了済みか。

○事務局 (西嶋)

段階的に取り組んでいる。来年度に甲州市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を改訂するので、新たに計画に盛り込んでいく。

○安藤委員

小中学校の改修機会に、カーボンニュートラル化を取り込まないと、費用がかさむので連携して欲しい。

○事務局 (西嶋)

新たに改修する建物に関しては、構造計算も考慮する中で教育委員会と連携しながら、検討していきたい。

第3章

○雨宮委員

温室効果ガス排出量による将来推計はあるが、2013年と比較し2019年は減少しているが、コロナの影響は含まれているのか。

○基礎地盤コンサルタンツ(株) (伊藤)

2019年はコロナ発生前のため、影響はないと考えられる。人口減少と少子高齢化が主要因だと考えている。

第4章

○内田会長

将来ビジョンの5つの基本施策の絵の中に、循環型社会の記載がないので入れてはどうか。脱炭素を目指すにあたりゴミ、食品ロスなど循環型社会を目指す構想は必要だと思う。

○基礎地盤コンサルタンツ(株) (伊藤)

環境教育の項目で循環型社会を表現して、次回に向けてわかりやすい形で反映していく。

○内田会長

政府の発表で、し尿処理の再資源化の議論があった。甲州市で、し尿処理、ゴミは現在廃棄されているが、今後資源化していくのも有効では。

○事務局 (西嶋)

市の指定管理で、し尿処理場がある。運営当初は使用していたが、今は止まっている。今後は県央広域で(近隣10市町村)、広域化・共同化で検討していく。

○瀧澤委員

将来ビジョンと施策を実現可能なものにするため、数値目標など具体的な値を入れてはどうか。例えば、屋根上の太陽光発電設置を、市内の何分の1の家に設置するなど。

○内田会長

審議会にて、数値目標を作る方向性でよいのか。

○事務局 (西嶋)

今回は方向性を示し、後の審議会で具体性を持たせる。来年度以降の審議会でも目標をたてていく。現状では気づきがない。意識を変えていくことが必要であり、市民全員の目標値をお互いに気づいて作る必要がある。

○萱原委員

広報活動を通して、リサイクルなど、食品ロス防止につながる行動が人間的美徳であるという価値観をもてる大人、認識、知識を広めていく必要がある。

○藤巻委員

環境課では、子供たちに出前授業などを行うことで、子供たちの環境意識は向上していると思う。学校の授業などの社会教育も大事だが、家庭での教育も大事。

○事務局 (西嶋)

広報誌にはごみ回収についてのお問い合わせ等の情報も掲載している。親子教室や環境教育(学校では細かく)をしていたりする。

<p>(4) その他</p> <p>4. 閉会</p>	<p>もっと盛んにしていければと思う。</p> <p>第5章</p> <p>○安藤委員 大人の行動の普及のために、自治会長の集まる場で再エネ導入やZEHの呼びかけをしては。</p> <p>○事務局（西嶋） 民間の知識を持った人に頼んで、出前授業をするなど模索していきたい。</p> <p>第6章</p> <p>○内田会長 計画を作ったままで終わらせないための意見はあるか。</p> <p>○藤巻委員 行動に移すための具体的なステージ（例：ごみ減量審議会、JAでのフォーパールの取り組み推進等）を作る必要がある。連携して数値目標をつくるなど。</p> <p>○内田会長 バイオマスの中で、塩山B&Gの改修があったが、具体的に話はずすんでいるのか。</p> <p>○事務局（廣瀬） 具体的な活用は難しい。南部町のバイオマス施設の視察したが想定以上に管理が大変なことがわかる。事業化については、事業者を呼び込むなど、検討していく必要がある。</p> <p>○藤巻委員 バイオマスの主な課題は材料とする木材が集まらないこと。山梨県では、小水力発電が合っているのでは。ただし、音がうるさくて撤去されたものもあるので課題がある。再エネ導入には課題が多いので、まずは電気の使用量をどれだけ抑えられるのか等の取り組みが大切では。</p> <p>○事務局（西嶋） 懸念事項が多いので、再エネ導入にいきなり踏み込むのはハードルが高い。まずは省エネから初めて、再エネ導入を検討していくのが、望ましいのではないか。</p> <p>第3回甲州市環境審議会 3月14日（火）13：30～</p> <p>○瀧澤 康雄副会長</p>
-----------------------------	--